

オープン市場短信 (2018年8月)

2018.8.10

◆ 7月のCP市場動向

7月末のCP市場残高は、前年同月比+2兆6,936億円の19兆3,207億円となり、2009年2月末の20兆4,465億円以来の高水準の発行残高となった。業態別の残高を前月対比で見ると、一般事業法人は調達環境の良好さが影響し、8兆1,629億円(+3兆4,030億円)と大幅に増加、その他金融も若干増加し8兆5,073億円(+916億円)となった。一方、金融機関は1兆4,620億円(△1,910億円)、ABC Pは1兆1,885億円(△2,091億円)とそれぞれ減少した。発行レートは、市場残高の増加の影響もあってか、全体的に目線が若干上昇しており、浅いマイナス~0%近辺での出会いとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%割れ 一般事業法人(a-1格) △0.0072%~0.0015%
その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ~0.0077%近辺で推移した。

【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	7月末残高	6月末残高	増 減
一般事業法人	81,629	47,599	34,030
その他金融	85,073	84,157	916
金融機関	14,620	16,530	-1,910
政府系金融	0	0	0
銀行等	3,930	3,685	245
証券	10,690	12,845	-2,155
ABC P	11,885	13,976	-2,091
計	193,207	162,262	30,945

(注：買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

7月のCPレートレンジ

(単位：%)

格 付	1カ月		2カ月		3カ月	
a-1+ (一般事業法人)	△	～ 0.0000%	△	～ 0.0000%	△	～ ——
a-1 (一般事業法人)	△	～ 0.0100%	△	～ 0.0015%	△	～ 0.0015%
a-1+ (リース銘柄)	△	～ ——	△	～ ——	△	～ ——
a-1 (リース銘柄)	△	～ ——	△	～ 0.0200%	△	～ 0.0030%
a-2	△	～ ケ0.10%	△	～ ケ0.10%	△	～ ケ0.10%

《CPオペ》

CP等買入オペのオファー額は、月間で合計6,000億円（前月比△1,500億円）と減額となった。5日のオペの按分レートは、△0.003%と前回の△0.005%から上昇し、12日のオペの按分レートは△0.003%と横這い推移。月末スタートの26日のオペは応札額が増加し、按分レートは△0.001%と前回比+0.002%上昇した。これは、市場残高が増加して、ディーラーの売却ニーズが高まったためと考えられる。

〈月末オペ残高：2兆1,626億円〉

【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月5日	7月10日	2,000	6,111	1,981	-0.003%	0.000%	37.4%
7月12日	7月18日	2,000	6,295	1,990	-0.003%	-0.001%	26.9%
7月26日	7月31日	2,000	6,940	1,904	-0.001%	0.003%	64.5%

《ABC P》

ABC Pは期末要因が解消し、前月比△2,091億円減少し1兆1,885億円となり、前年同月比△850億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、7月末時点における発行登録企業数は前月と変わらず、522社であった。

«C P 現先市場»

現先 (S/N) レートは運用ニーズ強く、マイナス~0 %近辺での出会いで0%では引き続き買い残り状態となっていた。

◆ 8月のC P市場動向

8月のC P 発行市場は、夏季休業に入る事業法人が多いことから、新規発行案件が減少しやや閑散なマーケットとなるだろう。お盆明け以降は、中間期末を見据えてショートターム物の発行中心に新規案件が増加すると思われる。市場発行残高は、7月と比べ横ばいからやや減少での推移が見込まれ、月末の発行残高は19兆円前後を予想する。発行レートは、発行残高の高い銘柄を中心に上昇地合いに転じており、深いマイナスレートでの発行は減少し0%近辺での出会いが多くなっている。a-1格の一般銘柄でマイナス~0%近辺、その他金融・リース銘柄で0%~0.02%台での出会いを予想する。

«C P オペ»

今月のC P 等買入オペは、オファー額は、各回2,000億円程度で合計6,000億円と前月と変わらず。7日のオペは、△0.001%と前回結果比横ばいとなった。次回以降は、月後半までは発行が少ないと見込まれ、ディーラーは積極的には売却に動かないと思われる。オペレートはやや低下地合いが予想される。

«C P 現先市場»

C P 現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出会いであろう。

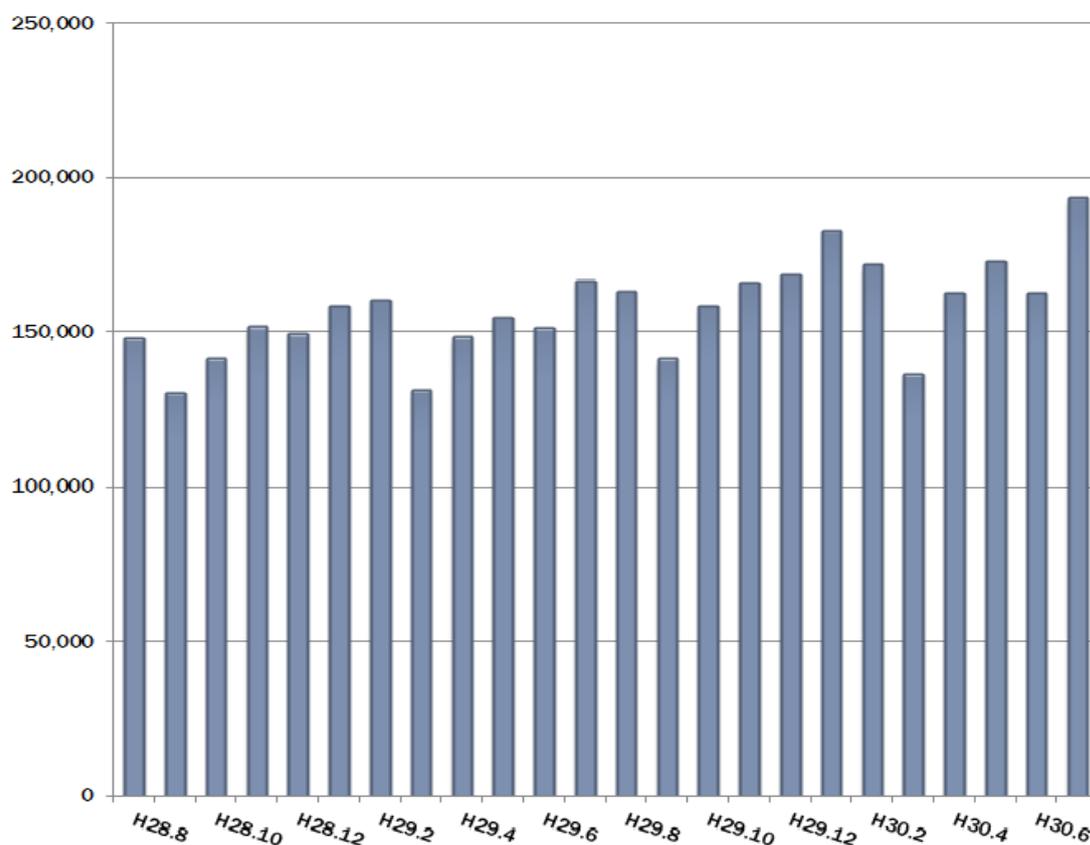
【7月発行残高 上位10社】

(単位：億円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	10,599	10,709
2	三菱商事	9,400	900
3	三菱UFJリース	7,306	7,634
4	東京センチュリー	6,311	6,301
5	興銀リース	5,500	5,378
6	クレディセゾン	5,050	4,380
7	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	4,986	5,691
8	JA三井リース	4,120	3,930
9	ジャックス	3,970	3,930
10	新日鐵住金	3,930	910

【短期社債月末残高】 (H28年8月～H30年7月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会